

5 エリア別のまちづくりの考え方

5－1. まちなか再生実現のための主要なエリア

「多様な機能の集積」による利便性と、「心地良い空間」がもたらす豊かな体験をかたちにするには、「10の方策」を各地域の個性や役割に合わせて具体化していくことが必要です。ここでは、交通結節拠点に加え、商業・業務機能が集積し、人の活動や交流を生み出す「8つの主要なエリア」を対象に、エリアごとの将来像と具体的な方針を定めています。各エリアでの将来の姿を共有することで、多様な機能と居心地の良い空間が調和したまちづくりを行政・市民・事業者が一体となって進めていきます。

呉服町通り沿道エリア

静岡の商業の中心地である「おまちの顔」。個性的で人が心地良いと感じる低層な街並みを継承しつつ、老朽化した建物や公共施設の更新と歩行者中心の空間づくりを通じて、質の高い商業空間としての価値を未来へ繋ぐエリア。

人宿町人情通り沿道エリア

民間主導でリノベーションによるまちづくりが進行する通り。この民間活力を最大限に活かし、新旧が融合した魅力を磨き上げ、新たな文化や個性を発信するエリア。

御幸通り沿道エリア

静岡駅と駿府城公園を結ぶ、県都静岡のシンボルとなる通り。歩行者動線の分断を解消することで、多様な界わい^{*1}をつなぐ「風格ある都市の軸」としての景観と機能を形成するエリア。

北街道沿道エリア

新静岡駅と駿府城公園・市民文化会館といった歴史・文化施設を結ぶ重要な通り。老朽化が進む商店街の再生と、隣接する鷹匠エリアとの連携強化を通じて、静岡都心北側エリアの回遊性を支えるエリア。

静岡駅周辺エリア

広域からの来街者を迎える静岡の「玄関口」。交通結節点^{*2}としての機能を高度化するとともに、駅とまちを一体的につなぎ、訪れる人々をもてなし、まちなかへと誘う、魅力的な交流空間を創出するエリア。

新静岡駅周辺エリア

静岡駅と並ぶ主要な交通結節点であり、大規模商業施設と個性的な鷹匠エリアが共存する、若者文化と商業の中心地。周辺エリアを繋ぐ「結節点」としての機能を強化し、多様な人々が出会い、活発に交流・活動する拠点を形成するエリア。

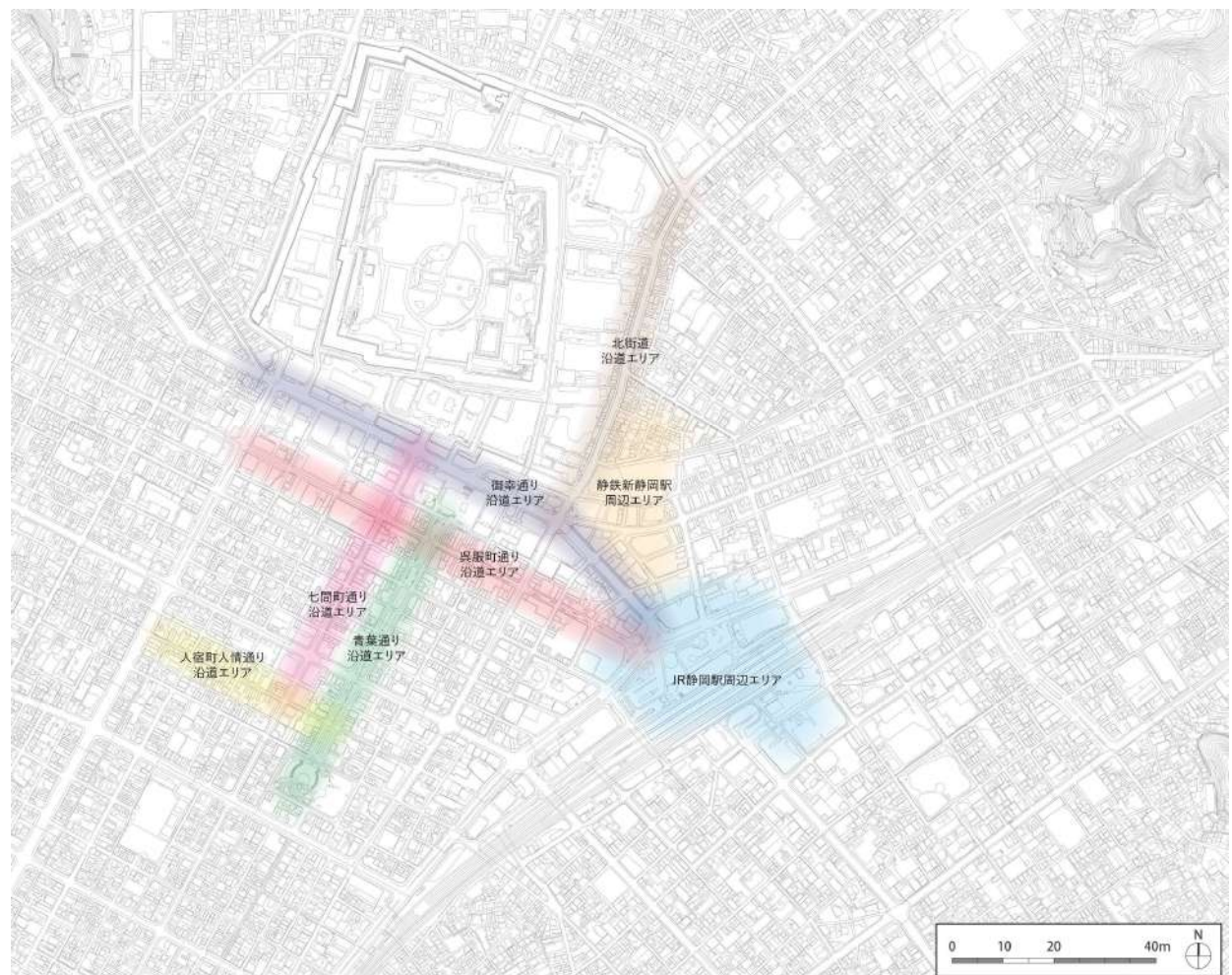
※掲載されている内容は、目指す姿の実現に向けた取り組みの方向性を示すものです。今後、関係者間で協議・調整のうえ、実現を目指していきます。

青葉通り沿道エリア

静岡大火からの復興の象徴であり、まちなかに広がる市民に開かれた広場。イベント等の利用だけでなく、日常的な憩いや多様な交流を生み出す「都心の広場」として、まちなか全体の回遊性と魅力を向上させる核となるエリア。

七間町通り沿道エリア

旧東海道の歴史と映画文化の記憶を継承する通り。子育て世代のニーズを受け止めつつ、個性的な店舗などと連携し、まちなか居住の魅力を高め、静岡都心の活性化に貢献するエリア。



^{*1}界わい：特徴のあるまとまった区域

^{*2}交通結節点：電車、バス、タクシーなど、異なる交通手段への乗り換えができる拠点(静岡駅、新静岡駅など)